

透析に至った患者さんの健診結果とレポートの突合から腎臓障害予防のための検診項目を考える

事例1.健診で尿潜血が15年続くが、専門機関への適切な受診勧奨ができなかったため健診を受けながら人工透析に至ったケース

一覧表番号 K-1	患者名 K・Hさん	年齢 80歳	性別 男性	透析開始年月日 平成16年11月18日
--------------	--------------	-----------	----------	------------------------

健診受診状況		年齢	52	58	59	60	60	61	62	62	63	64	65	66	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	
		受診年月	S53.3	S59.3	S60.1	S60.11	S61.1	S62.1	S62.11	S63.1	H元.1	H2.1	H3.1	H4.1	H6.8	H7.8	H8.1	H9.1	H10.1	H11.1	H12.1	H13.1	H14.1	H15.1	
身体の大きさ	身長	cm	152.2	151.3	152.3	152.6	152.5		150.8		151.8	151.3	152.2	151.6	151	151	151	150.9	151.3	151.6	151.2	150.3	151.3	151.2	
	体重	kg	64.0	61.8	64.8	62.0	62.2		62.0		64.7	65.4	65.2	66.4	64.8	65.6	67.0	65.0	66.6	65.5	65.7	63.1	61.6	60.1	
血管への影響 血管内皮 動脈硬化の危険因子	空腹血糖	mmol/L	27.6	27.0	27.9	26.6	26.7		27.3		28.1	28.6	28.1	28.9	28.4	28.8	29.4	28.5	29.1	28.5	28.7	27.9	26.9	26.3	
	空腹血糖	mmol/L	190			145	256	314	128	220	474	271	461	179	316	373	261	181	108	268	237	235	247	100	
	HDL	mmol/L												45	37	36	40	43	38	38	37	32	36	38	
	GOT	U/L				18	21	15	29	14	15	19	30	25	19	18	20	18	21	18	18	16	15	10	
	GPT	U/L	12	27	12	12	17	17	37	10	22	16	35	33	18	19	17	14	12	13	14	11	11	11	
	γ-GTP	U/L				36	19	67		69			51	68	54	55	55	37	31	42	39	51	45	47	47
	尿酸	mg/dl							6.3	8.3	8.5	8.5	9	9.4	7.4	7.2		6.2	7.1	7.2	6.3	6.4	8	6.9	
	収縮期	mmHg	164	180	160	154	152	134	160	130	144	164	150	148	160	150	166	158	170	170	156	133	162	152	
	拡張期	mmHg	90	102	90	86	100	86	90	88	70	90	90	88	94	96	104	88	100	100	76	70	83	79	
	ヘモグロビン	g/dl	46	50	45	44	46	43.7	44.5	45.4	46	44	46	43.2	44.4	44.3	48.1	45.4	48.6	46.9	44.2	42.3	42.8	39.2	
ヘモグロビン	g/dl												15.3	14.7	14.7	16.1	15.5	15.7	15.4	14.9	14.9	14.4	13.2		
血糖	mmol/L				96	81	85	86	83	90	120	80	94	86	88	97	108	84	75	105	100	102	92		
HbA1c	%	~5.4%																				4.5	4.6	4.7	
尿糖		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
総コレステロール	mg/dl	150~199	171	150	143	156	161	146	187	203	161	140	136	161	142	160	141	149	141	156	160	163	140		
LDLコレステロール	mg/dl	~139mg/dl											55.2	60.8	31.4	73.8	61.8	89	50	72	70	77	82		
心臓	心電図	異常なし	左室肥大	左室肥大	左室肥大	左室肥大	左室肥大	左室肥大	左室肥大	左室肥大	左室肥大	左室肥大	左室肥大	左室肥大	左室肥大	左室肥大	左室肥大	左室肥大	左室肥大	左室肥大	左室肥大	左室肥大	左室肥大	左室肥大	
脳	眼底検査	H O S O	KW-I	KW-I	KW-I	KW-I	KW-I	KW-I	KW-I	KW-I	KW-I	KW-I	KW-I	KW-I	KW-I	KW-I	KW-I	KW-I	KW-I	KW-I	KW-I	KW-I	KW-I	KW-I	
腎臓	血清クレアチニン	mg/dl	0.7~1.2	0.8~1.0		16.2	16		19.2		18.6	0.87	1.3	1.4	1.5	1.2	1.4	1.5	1.13	1.4	1.65	1.86	2.36	3.22	
	尿潜血	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
その他	尿潜血	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
糸球体ろ過量 (GFR)												82.9	52	47.6	43.6	56.3	47	43.3	59.8	46.6	38.5	33.4	25.3	17.6	

家族歴(遺伝因子)	
糖尿病	50歳~旦那の症状(糖尿病)で動けなくなり、入院 糖尿病(1型)と診断され、インスリン投与
腎臓	52歳~高血圧 治療 (当初は服薬不規則)
網膜	
神経	
脳血管疾患	
虚血性心疾患	
高血圧	
高脂血症	
高尿酸血症	
腎臓病	
肝臓病	

問題点
-町の健診を受け始めた当初から「尿潜血」が持続しているが、「一度検査したけど何ともなかった」「治療の必要はない」等の住民から聞いた医師の発言に保健師が依拠し、積極的に専門機関への受診を勧められなかった。
-「尿潜血」と腎臓障害との関連を保健師が理解していなかったため、「慢性腎炎」という病名がついているから、尿の「潜血」や「たんぱく」が仕方ない現象と捉えてしまった。
-高血圧を心臓(心電図)との関連でしか捉えられず、標的臓器である細小血管の腎臓をクレアチニンの上昇があるまで見過して

課題
-尿に血液が出ることを意味する腎臓機能とむすびつけて住民自身が理解できる資料がない
-風邪などの感染症が腎臓機能にどのように影響するのか、住民が自分で既往歴を振り返り理解できる資料がない
-メタボリックシンドロームもあった本事例は数値アルブミン尿検査により腎臓障害予防のための早期介入が可能であったと考える(左室肥大の出現している50代)

クレアチニンの上昇が見られた年から、糸球体ろ過量(GFR)の低下が見られる。3年後には「尿蛋白」も陽性となり、明らかに腎臓障害が疑われるが、過院治療中という事で、主治医(内科)に変わった。この時点で専門医のフォローがあれば慢性腎臓病が重症化することはなかったのでは...

69歳~痛風 治療(外科)

77歳~息を強く、受診し入院 心臓に水が貯まっているといわれる
入院中の検査で初めて「腎臓が悪い」と指摘、1年未満に

78歳~人工透析 開始